

薬物治療学 1

1 単位 (選択) 3 年 (前期)

Pharmacotherapy 1

滝口 祥令・教授 / 薬学科 生命医療薬学講座 薬物治療学

【授業目的】 疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの確かな患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定および各々の医薬品の「使用上の注意」を考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、薬物治療に関する基本的知識と技能を修得する。

【授業概要】 身体の病的変化を病態生理学的に理解するために、代表的な症候と臨床検査値に関する基本的知識を学ぶ。また、下記に示す疾患およびその治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を学ぶ。

【授業形式】 講義

【履修上の注意】 医薬品の適正使用にあたっては、化合物としての医薬品の特徴のみならず、疾患の病態生理や患者の生理機能などをトータルで把握し、理解することが必要である。目の前の患者に適した薬物治療法を考える Practical pharmacy を学ぼう。

【到達目標】

1. 症候と臨床検査値

- 1) 代表的症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。
- 2) 代表的な臨床検査の方法と、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。

2. 心臓・血管系の疾患の薬物治療

- 1) 心臓および血管系における代表的な疾患を列挙し、概説できる。
- 2) 下記疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
心不全、不整脈、虚血性心疾患、血栓・塞栓症、高血圧

3. 血液・造血器の疾患の薬物治療

- 1) 血液・造血器における代表的な疾患を列挙し、概説できる。
- 2) 下記疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
貧血、白血病、出血性疾患

4. 内分泌系疾患の薬物治療

- 1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を列挙し、概説できる。
- 2) 下記疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
甲状腺機能異常症、クッシング症候群、尿崩症

5. 総合演習

- 1) 指定された疾患における薬物治療と非薬物治療の位置づけを説明できる。
- 2) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。

【授業計画】

1. 臨床検査値の見方 (1)
2. 臨床検査値の見方 (2)
3. 循環器系生理と検査法
4. 心不全の薬物療法
5. 不整脈の薬物療法
6. 虚血性心疾患の薬物療法
7. 血栓・塞栓症の薬物療法
8. 高血圧・低血圧の薬物療法
9. 血液・内分泌系生理と検査法
10. 貧血の薬物療法
11. 出血性疾患の薬物療法
12. 白血病の薬物療法
13. 甲状腺疾患の薬物療法
14. 副腎疾患の薬物療法
15. 尿崩壊の薬物療法
16. 定期試験

【成績評価】 試験で評価する。なお、受講態度も加味する。

【再試験】 実施する

【教科書】 スタンダード薬学シリーズ 6 薬と疾病 II 東京化学同人

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217213>

【連絡先】

⇒ (研究室)薬学部研究棟2階 薬物治療学教室

(Eメールアドレス)takiguti@ph.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 随時)